

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園武蔵新城	種別：認可保育園	
代表者氏名：森 匡子	定員（利用人数）： 70名	
所在地：〒213-0014 川崎市高津区新作5-17-18		
TEL：044-982-0532	ホームページ： https://www.like-kd.co.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2014年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社		
職員数	常勤職員： 18名 非常勤職員 5名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	管理栄養士 1名	
	栄養士 1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	8（事務所・厨房込み）	鉄骨造1階建て・バリアフリー・ オール電化

③ 理念・基本方針

のびやかな育て だいちの芽
みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛…信頼・安定・共感
【乳児保育目標】
保育者との信頼関係を基盤に、安心して過ごし「やってみたい」「じぶんで」の気持ちを引き出していく保育。
【幼児保育目標】
乳児期から積み重ねてきたいろいろな経験から、日々の生活を人とかわりながら楽しみ、最後までやり遂げる達成感を感じられる保育。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・散歩や近隣の公園での活動を全年齢で取り入れ十分な戸外活動を実施する
- ・平屋建ての長い廊下を活かした遊びや生活の展開
- ・全年齢の子どもたちが同一フロアで過ごす中で芽生える異年齢児への関心を活かした保育
- ・地域商店会や町内会の事業への参加を通じた地域交流
- ・各年齢の発達や子どもの興味関心をとらえ、保育士、給食職員、看護師が連携して関わる
- ・子どもの人権に配慮した保育をしていくための職員の意識向上を図る
- ・園全体の保育の向上のための職員研修の実施

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年 6月 7日（契約日） ～ 2023年 11月 28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（令和2年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

特長

積極的に地域交流をして情報収集に努め、地域との連携を図っている

園では行政をはじめ病院など、地域の関係機関の連絡先を一覧にまとめ、地域の社会資源としてリストを作成して全職員に周知している。園長は区の近隣園交流会や園長会、町内会などに参加し、最新の地域情報を入手して、家庭での虐待など権利侵害が疑われる子どもへ対応し、区の子ども支援係や児童相談所とカンファレンスなどを行い、連携できる体制を築いている。また、特別な支援が必要な子どもへの対応は地域療育センターと定期的に連携をとっている。本部から全国のニュースや地元地域の情報、注意喚起メール、地域の福祉ニーズ・状況などの情報を把握している。また、運営委員会で地域住民の意見や民生委員との意見交換の場にて情報収集をしたり、第三者委員より地域の福祉ニーズや生活課題など、周辺住民の状況などの情報を得ている。幼保小連絡会に参加し、共通の教育テーマに沿った課題の検討や情報交換を行っている。さらに、園見学者から子育て事情を伺い、相談や質問を受けたり、姉妹園や他園の園長と情報交換を行い、最新のニーズを把握している。このように、園は地域の社会資源や福祉の状況に関して、積極的に情報収集し連携を図っている。

職員は、連携して子ども一人ひとりを受容し、子どもの状態に応じた保育をしている

平屋の園舎で、各保育室は廊下から一望できるため、廊下に出ることで、各保育室の活動状況が分かるようになっている。子どもの泣き声などを聞くと応援出来る保育士が該当クラスに直ぐ駆け寄り、子どもや保育士の支援を行っている。生活年齢では、該当クラスで安心して過ごすことが難しいと思われる子どもには、発達に応じて在籍クラスを変えるなど、職員は常に、信頼・安心・共感としている保育方針にもとづき、クラスの枠を超えて、子どもにとって最適となる場所で養護と教育が一体的に提供出来るように、話し合いを深め保育実践している。

今後期待される点

ボランティアや実習生の受け入れなど、地域の保育園として公益的な事業展開が期待される

園では、担当者を決めて受け入れマニュアルなどを整備して積極的な受け入れを推奨し、ボランティアや実習生などをいつでも受け入れられるよう体制を整えており、保育学生・看護学生の実習受け入れの実績もある。ただし、コロナ禍の影響により地域貢献・地域還元的な公益事業活動は現在は行っていない。ボランティアや実習生の受け入れは地域社会との交流や地域貢献の一環という側面もあると思われる。現在、園は地域の中の認可保育園としての役割の認識と可能な事業についての精査をすることに取り組んでおり、順次実施可能なものを中長期計画に盛り込み、実施に向けて検討中である。園は地域の社会資源や福祉の状況に関して積極的に情報収集し、地域の福祉ニーズを具体的に把握している。今後はこれらの情報を活かし、地域の中の認可保育園としての役割を認識した公益的な事業展開を目指すことも期待される

職員が個人で行う自己評価を、組織全体の自己評価につなげ、保育園としての保育の質の向上に向けた取り組みとなることが望まれる

職員は、定期的に保育実践の振り返りを行うとともに、会議でお互いの保育実践に対する評価なども話し合い、保育内容の改善を図っている。「成長支援制度」を活用し具体的目標を設定し、意識的に業務に臨んでいる。年2回の振り返りや園長との面談による相談・アドバイスを受け、次の保育につなげているが、全職員の保育感が共有するまでには至っていない。今後は、保育の課題などへの共通理解を深め、継続

的・組織的にさらなる保育の質の向上に向けて取り組んでいくことが望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審を、園の保育を振り返る機会として捉え、「園の強み」「園の課題」を明確にしていくきっかけとなった。評価結果を全職員で読み合わせ、具体的に期日を設定する等して課題解決と強みの強化に努めていきたい。
職員間の連携や相互理解が深める為に、日常の保育及び園内研修の中で、積極的なコミュニケーションが図れるよう、具体的な計画に沿って実行していく。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり